

「ぎょしゃ座(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「令和最初の夜」は雨が降っていた。星の写真を撮ろうと思っていたが、残念ながら完全に敗退だった。しかし昨夜(令和元年5月2日)の北軽井沢は快晴。

この晩、山荘に友人一家が泊まりに来ることになっていた。到着が遅かったので、行きつけのレストランを予約し、直接来てもらうことにした。



北軽井沢交差点から、少し草津寄りに下ったところにある、レストラン「パンカーラ」。南米料理の専門店、ピザやパスタ、それに「ソパ・デ・アホ」というスープが非常においしい。しかも、リクエストをすれば、オーナーの方が生演奏もしてくれる。(写真は特別ライブ前夜の様子) 私もこのお店でケーナを1本譲ってもらい、練習しているのだが、「コンドルが落ちてゆく」しか演奏できない。

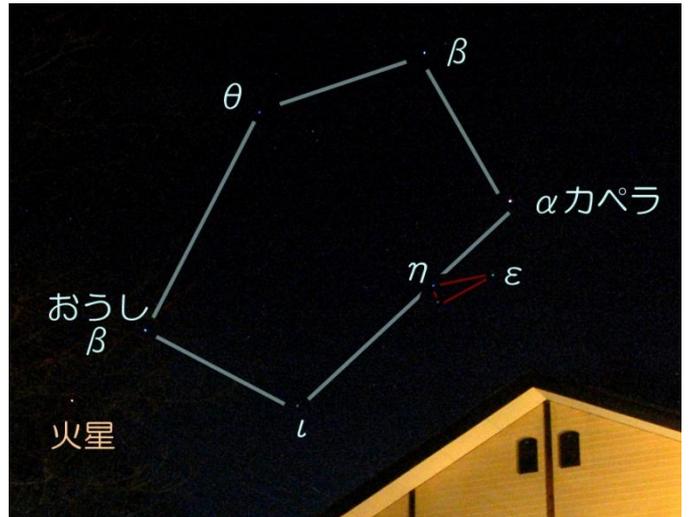


このレストランは北軽井沢の市街地からも、長野原

市街地からも離れているので、空が真っ暗だ。お店の前でも天体写真が撮れる。私は車の中に、三脚、簡易赤道儀、天体写真用のカメラなどを常に積み込んであるので、さっそく駐車場で撮影した。



この日はちょうど、レストランの上に「ぎょしゃ座」が見えていた。ぎょしゃ座は冬の星座に数えられるが、今の時季、夜8時頃に西の空に沈む寸前になって見えるのだ。



特徴的な五角形をしていて、よく目立つ。古来から日本では「五角星」、中国では「五車星」と呼ばれていた。最も明るいのがα星。一等星のカペラだ。自動車の名前にもなっている。通常、星座の恒星の呼び名は、明るい星からα・β・γと称する。

ところがカペラにはβ星が2つある。実は左下のβ星は「借り物」で、おうし座のβ星なのだ。ぎょしゃ座にとっては「御者の右足」にあたり、おうし座にとっては「左の角の先端」にあたる。どちらにとっても欠かせない星なのだ。古来の星図では「共有」だったのだが、現在の星図には「星座の境界線」があるので、「おうし座のβ星」ということになっている。